〔三代實錄四清和〕貞觀二年八月五日壬午、中宮大夫從四位下藤原良仁卒、○中略性至孝、奄丁母憂、哀啼哭泣、歐血絕氣、經時乃蘇、不勝悲慟、服中病卒、時年四十二、

〔三代實錄十五清和〕貞觀十年二月十八日壬午、參議正四位下行右衞門督兼太皇太后宮大夫藤原朝臣良繩卒、○中略齊衡元年○中略是年冬、父大津卒、於任國、始聞父疾、卽欲奔赴、天皇○文德不聽、及得審問、嘔血、氣絕、數刻乃蘇、

〔榮花物語七とりべ野〕八月○長保四年廿よ日にきけば、淑景舍女御○後朱雀皇后嬉子うせ給ぬとの丶ゑる、あないみじ、こはいかなることにか、さることもよにあらじ、日比なやみ給とも聞えざりつる物をなど、おぼつかながる人々おほかるに、まことなりけり、御はなくちより、ちあえさせ給て、たゞにはかにうせ給へる也といふ、あさましいみじとはよのつねなり、

〔薩戒記〕永享五年九月廿日、寅始刻、按察大納言公保送使者云、法皇○後小松御惱危急之由有風聞、仍所馳參也者、仍予著布衣參入、按察大納言、日野中納言、兼郷執權也四辻宰相中將季保醫師員能法眼號三位法眼等祗候、人々談云、自去亥終刻、有御吐氣、令吐血三盃許、御之後、未被取直御出、于今不令見知人御、又無御分別是非之氣者、言語道斷也、員能參上候御脈、然而不被知命之、暫之左大臣殿令參給、拜見龍顏、退出給、卯終刻、予參御前拜見、其御體、不可記盡、此後暫退出、辰始刻、按察大納言示送、今法皇御心地令取直御了、

〔多聞院日記〕天文十二年五月二日、社中奥殿下人太郎ト云物、從去年吐血ト云病ヲ受テ、昨日死去了、彼仁、姪欲熾盛、勝萬人ニ、而受テヨリ此病、前神主家統、以計略夫婦相離テ令別宿之處ニ、太郎ガ宿ヨリ、每度彼女房ノ家ノ上ヘ猛火カヨキ了、此事無隱聞、ヤガテ許可之置一所ニ處、血ヲハキ、一身血ニ交レテ死了、

〔增補下學集上二支體〕下血

下血